

里山グループ

◆静かな時間

戸田 博子

里山の今



エコファームグループ

◆思いがけない骨折

平田 和子

谷山浩子の「テングサの歌」を知っている？
里山とは無関係な切り口で書き始めたが、この歌は紀勢本線のとある駅にいる「テングサ」がつぶやいている。

海も空も植物も変わりなく過ごしているが、人間が誰一人居ないのだ。今の状況を見ているうちに、この歌を思い出した。

必要な仕事をされている人たちを除いて、公園も山も街も、そして私たちのベースキャンプである平城山も人の姿が消えているとは言わないまでも、人は見られなくなっている。

その中で、鳥はさえずり、着々と木の芽や花たちは伸びている。一生懸命に自然（里山）を守っているつもりだったが、私たちの行動は必要だったのだろうか？人は自然と共存しているためと考えているが、他の生物は、人間は取り立てていないのかも？

春なのに、悲観的な文章を書いてしまっておめんなさい。

知らない方のため「テングサの歌」の歌詞を追記しておきます。

<歌詞>

♪紀勢本線 各駅停車 南部の次の岩代駅の

ひと気のないホームの古いベンチの上に

あたしはいるの

あたしテングサ 海からとれた紫色よ

もじゃもじゃ髪よ

誰か忘れた 誰か捨てたの

思い出せない 何も知らない

ぽかぽかお陽さまよ いい天気

誰もいないのよ なぜかしら

そりゃあ あたしにとっては

どうでもいいことだけど

人間のいない地球って気持ちのいいものね♪

(2番へと続きますが、参考まで)

私の家では、サチという名前の犬を飼っていました。しば犬の雌17才で庭に離し飼いです。昨年5月30日(木)のことです。

5月中旬から壁を塗り替えるために家の周りに足場が組んであるので、毎朝サチを庭から玄関へ連れて行くのですが、その日は業者の顔を見た途端、逃げ出してしまいました。私は逃げた方向にある側溝の草むらを探していた時、草むらの穴に足を取られて、深さ1mくらいの側溝に落ちてしまいました。自力で這い上がって「痛い」「痛い」と言いながら自宅まで戻りました。今考えるとよく帰れたものです。

それからが大変です。近くの嫁が来てくれて、救急車を呼ぶ時、慌てて「110番」に電話してしまい「警察ですから119番に」と言われたとか、びっくりさせてごめんなさい。

左側の手首と股関節の骨折でした。手首はすぐに金具で止める手術をしましたが、股関節は自然治癒という事でベッドの上だけの生活です。最初は起き上がれる角度は30度で食事とトイレが大変でした。いろんな人に話は聞いていましたが、まさか自分になるとは、情けなかったです。ベッドの上と車いすの生活が1ヵ月近くかかり、後はリハビリ病棟に移って1日2回のリハビリを頑張りました。

突然の入院で主人に「あれ持って来て」「これ買って来て」と、わがまま言ったけど、嫌な顔せず病院の食事がかわいそうだと言って、差し入れを作って持って来てくれたりしました。感謝、感謝の毎日でした。あれからサチは戻って来ない。何処へ行ったのか、かわいそうなことをしました。

私は昨年12月から里山に来れるようになりました。半年のブランクも無かったように皆さまが暖かく迎えて下さって、ありがとうございました。やはりとっても楽しいです。